

# 祭日徹夜祷

通常部分  
(変わらない部分)

名古屋ハリストス正教会  
2015

# 主日大祭、徹夜禱の式順比較

\*網掛けは現行で省略されている部分

主日		備考	大祭	備考
晩 課	9時課が晩課の直前に行われる		9時課が晩課の直前に行われる	
	司祭「光栄は一体にして」		司祭「光栄は一体にして」	
	「来たれ」		「来たれ」	
	首誦聖詠(103 聖詠)		首誦聖詠(103 聖詠)	
	大連禱		大連禱	
	カフィズマ「悪人の謀」	第1段	カフィズマ「悪人の謀」	祭日経の指示に従う。
	小連禱		小連禱	
	「主や爾に呼ぶ」と	その週の調	「主や爾に呼ぶ」と	指定の調で
	ステヒラ	聖詠省略	ステヒラ	聖詠省略
	「光栄は」「今も」生神女讃詞	ドグマティカ	「光栄は」「今も」生神女讃詞	
	聖入「聖にして福たる」		聖入「聖にして福たる」	
	ポロキメン(土曜日の)		ポロキメン	曜日のポロキメン
	重連禱		重連禱	
	「主や我等を守り」		「主や我等を守り」	
	増連禱		増連禱	
	リティヤのステヒラとリティヤ		リティヤのステヒラとリティヤ	
	挿句のステヒラ		挿句のステヒラ	
	シメオンの祝文		シメオンの祝文	
	「聖三祝文 ~ 天主経」		「聖三祝文 ~ 天主経」	
	トロパリ(生神童貞女や慶べよ)		トロパリ 3回	
五餅の祝福		五餅の祝福		
終結部		終結部		
33聖詠(1~10節)徹夜禱の時		33聖詠(1~10節)徹夜禱の時		
司祭祝福		司祭祝福		
早	「至高き」		「至高き」	
	六段の聖詠(第 3, 37, 62, 87, 102, 142)	前半のみ	六段の聖詠(第 3, 37, 62, 87, 102, 142)	前半のみ
	大連禱		大連禱	
	「主は神なり」トロパリと生神女讃詞		「主は神なり」祭日のトロパリ	
	聖詠誦読		聖詠誦読	
	第2カフィズマの読み	第 9-16 聖詠	最初のカフィズマの読み	曜日による
	小連禱		小連禱	
	セダレン		セダレン	
	第3カフィズマ	第 17-23 聖詠	2つ目のカフィズマ	曜日による
	小連禱		小連禱	
	セダレン		セダレン	
	第 118 聖詠またはポリエレイ	ポリエレイ	ポリエレイ	
	「主よ爾は崇め讃めらる」		讃歌	ロシア系教会のみ
	小連禱		小連禱	
	イパコイ		イパコイ	
その週の調のアンティフォン3つ	第 1 アンティフォンのみ	アンティフォン4調 歌う		
ポロキメン		ポロキメン		

課	凡そ呼吸ある者		凡そ呼吸ある者	
	福音の読み(11の復活福音)		福音の読み	
	「ハリストスの復活を見て」		「ハリストスの復活を見て」	ない場合もある
	第50聖詠		第50聖詠	
	福音後のステヒラ		福音後のステヒラ	
	連禱「主や爾の民を救い」		連禱「主や爾の民を救い」	
	「主憐めよ」12回		「主憐めよ」12回	
	カノン	第1の復活の カノンのみ	カノン	祭日のカノン(複数の場合もある)
	1.復活のカノン			
	2.十字架のカノン			
	3.生神女のカノン			
	4.聖人のカノン			
	第1歌頌、第3歌頌		第1歌頌、第3歌頌	
	小連禱		小連禱	
	セダレン		セダレン	
	第4歌頌、第5歌頌、第6歌頌		第4歌頌、第5歌頌、第6歌頌	
	小連禱		小連禱	
	コンダクとイコス		コンダクとイコス	
	第7歌頌、第8歌頌、第9歌頌		第7歌頌、第8歌頌、第9歌頌	
	小連禱		小連禱	
	「主我等の神は聖なり」			
	エクサポスティラリ		エクサポスティラリ/光耀歌	
	生神女讃詞			
	讃揚歌「凡そ呼吸ある者」	後半省略	讃揚歌「凡そ呼吸ある者」	後半省略
	ステヒラ+福音ステヒラ		ステヒラ	
	生神女讃詞		生神女讃詞	
	大頌栄		大頌栄	十字架挙栄祭は特別
	聖三祝文		聖三祝文	
	定規のトロパリ		祭日のトロパリ	
	重連禱		重連禱	
増連禱		増連禱		
終結部		終結部		
司祭祝福		司祭祝福		
司祭発放		司祭発放		
1時課		1時課		

聖枝祭は三歌斎経昇天祭・五旬祭は五旬経参照

参考資料：Kallistos Ware, Festal Menayon, Abridged Typicon、祭日経、三歌斎経、五旬経略

注：名古屋教会での実践に合わせて作成したものです。祈祷書と照合しやすいように、また将来より完全な祈祷ができるように、省略部分についても指示は残してあります。

・楽譜には、祈祷の流れを追うために誦経部分も入っていますが、ルビなどが入っていないので、誦経するときは必ず、時課経、祭日経などの正規の祈祷書を用いてください。(入力された祈祷書は故イアコフ富賀見さん、グレゴリイ長岡さんのご厚意によるものです。)

2013年6月 監修：ゲオルギイ松島雄一 作成：マリア松島純子

# 大祭日徹夜禱

司祭 (王門の前に立って) 光栄は一体にして生命を施す別れざる聖三者に常に帰す、今も何時も世世に、  
誦経 (詠) 「アミン」

<九時課省略>

## 晩 課

司祭 来れ、我等の王・神に叩拜せん。(歌う場合もある、復活祭期は「ハリストス死より…」3回)  
来れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。  
来れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

【首唱聖詠】(第103聖詠の抜粋を歌う、小祭日では誦読。司祭は王門の前に立ち、光耀祝文を唱える)

わがたま しい や 主をほめ あげよ  
主やなんじ はあ がめほめ らる 主わが"かみ  
やなんじはいたっておおい なり主やなんじ はあ  
がめほめ らる なんじは光 えい とい げんと  
をこら む れり主やなんじ はあ がめほ  
め らる やまのいただ きに みず"たつ  
み ず" たつ 主 やなんじのしわざ" は  
き い なり やまのあいだ に み

づな がる み ずな がる ま やなんじの  
 しわ ざ は き い なり みなちえ を  
 もって つくれり ちえを もって つくれり 光 え  
 いは なんじばん ぶつをつくりし主に きす  
 光栄は父と子と聖神にきす今もいつも世世にアミン  
 二度繰返  
 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光栄は汝に帰す

【大連禱】

- 輔祭 我等安和にして主に祷らん、 (詠) 主 憐れめよ  
 輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、 -以下同様-  
 輔祭 全世界の安和神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん。  
 輔祭 此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とを以て此に来る者の為に主に祷らん  
 輔祭 教会を司る我等の主教 (某)、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の  
 為に主に祷らん、  
 輔祭 我が国の天皇及び国を司る者の為に主に祷らん、  
 輔祭 此の都<sup>まち</sup>邑と凡の都<sup>まち</sup>邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祷らん、  
 輔祭 気候順和、五穀豊饒、天下泰平の為に主に祷らん、  
 輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び彼等の救いの為  
 に主に祷らん、  
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが為に主に祷らん、  
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、  
 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記  
 憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委  
 託せん、 (詠) 主 爾に  
 司祭 (高声) 蓋凡そ光栄尊貴伏拝は 爾<sup>なんじ</sup> 父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠)「アミン」

## 【カフィズマ】

(聖詠經の第1カフィズマ「悪人の謀」を祭日經の指示に従って、誦す、または歌う。または歌わない。)

- ・ 迎接祭 第一段を歌う
- ・ 生神女福音祭、齋中にあたる場合はなし
- ・ 聖枝祭 カフィズマ全篇誦読。
- ・ 昇天祭 カフィズマなし。
- ・ 五旬祭 全篇誦読。
- ・ 顕栄祭(変容祭) 土曜日はカフィズマ全文誦読、日曜日第一段を歌う、平日なし
- ・ 生神女就寝祭 第一段を歌う。
- ・ 生神女誕生祭 第一段を歌う。
- ・ 十字架挙栄祭 土曜日はカフィズマ全文誦読、日曜日第一段を歌う、平日なし。
- ・ 生神女庇護祭 第一段を歌う。
- ・ 生神女進堂祭 第一段を歌う。

※ない場合は「小連禱」もなし。大連禱から直接「主よ爾によぶ」へ。

あ く <sup>ニ</sup>人 の はかりごと <sup>ヒト</sup>に、ゆかざ <sup>サイワ</sup>る人は福いなり

ア リ ル イ ヤ、ア リ ル イ ヤ、ア リ ル イ ヤ

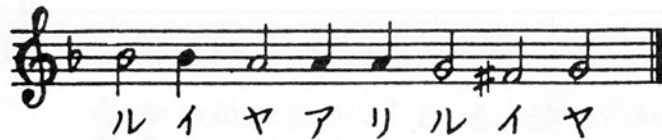
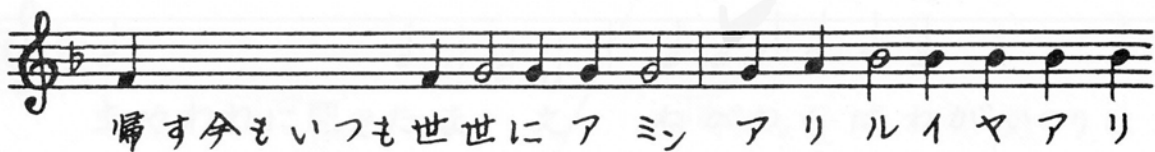
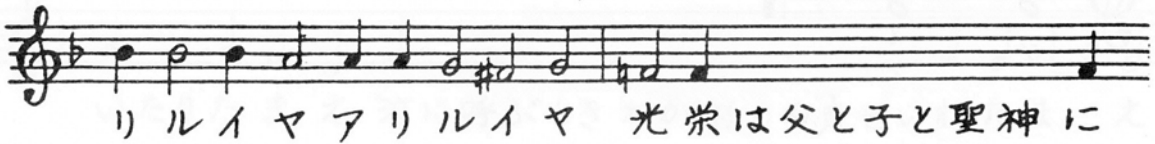
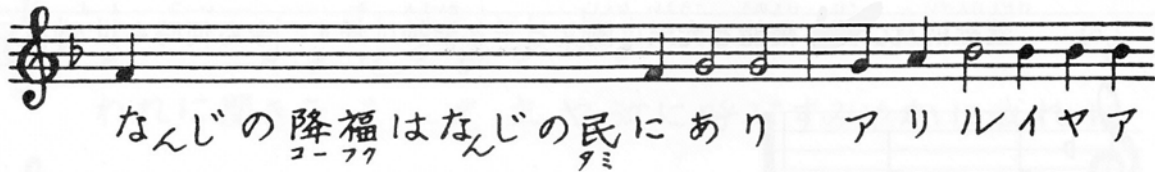
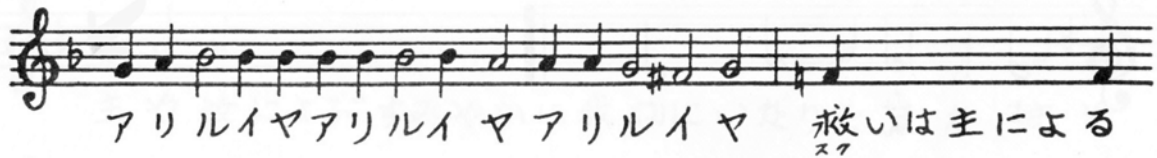
主は義 <sup>マジン</sup>人の道を知る悪人の道はほろびん アリルイヤ

ア リ ル イ ヤア リ ル イ ヤ おそれて主につとめよ、おのの

いで、その前 <sup>ヨロコ</sup>に喜べよ アリルイヤアリルイヤアリル

イ ヤ およそ彼をたのむものは福 <sup>サイワ</sup>いなり アリルイヤアリ

ルイヤアリルイヤ 主やたてよわが神やわれを救 <sup>スツ</sup>いたまえ



【小連禱】

- 輔祭 我等安和にして主に禱らん、 (詠) 主 憐れめよ
- 輔祭 上より降る安和と我等が<sup>たましい</sup>霊の救いの為に主に禱らん、 (詠) 主 憐れめよ
- 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・生神女<sup>しょうしんじょ</sup>・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に<sup>ことごと</sup>悉くの我等の生命<sup>いのち</sup>を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主 爾に
- 司祭 (高声) 蓋権柄及び国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠)「アミン」

# 祭- 1

☆別冊へ

【主よ、爾によぶとスティヒラ】第 140、141、129、69 聖詠とスティヒラ

<途中 140 聖詠「願わくは…」は通常省略される>

(祭日経に指示された調で「主や爾によぶ」を歌い、聖詠の句に続いて、スティヒラを歌う(唱える)。

最後に、「光栄は」「今も」に続いて生神女讚詞を歌う。

【聖 入】

輔祭 (高声) 睿智肅みて立て、

選択 1 聖にして福たる

聖セイにして福フクたる常ジョウ生セイなる天の父の聖なる光栄のおだやか  
なる光ヒカリ イイスススス ハリリ トスス やわれら日の入りに至り暮れツの光を  
見て神カミ 父と子と聖神をうとじ 生命を賜うかみの  
子やなんじはいつも敬ケイけんの声にて歌わるべしゆえに  
世界セカイはなんじをあがめほむ



## 選択2 聖にして福たる

Znamenie/Valaam

聖にして福たる

常生なる 天の父の 聖なる 光栄の

穏やかなる ひかり イイスス ハリストースや、

われら 日の入りに いたり 晩のひかりを見て、

かみ 神 父と子と せいしんを うたう

い-のちを たま 神の子や、

なんじは いつも 敬虔の 声にて 歌わるべし

ゆえ 故に せかい は なんじ あが ほ 讃 む

【ポロキメン】曜日によって変わる。(まっすぐでも構わないが、メロディをつけることもできる。)

輔祭 謹みて聴くべし、  
 司祭 (衆に祝福) 衆人に平安、  
 輔祭 睿智

【土】 主は王たり、彼は威厳を衣たり、(土曜日は大ポロキメンなので本来4回半)

(句) 主は能力を衣、又之を帯にせり、  
 (句) 故に世界は堅固にして動かざらん、  
 (句) 主や、聖徳は爾の家に属して永途に至らん、

【日】 主の諸僕夜中主の堂に立つ者や、今主を崇め讃めよ。(句) 爾の手を揚げ聖所に向かふて主を崇め讃めよ。

【月】 我よべば主は之を聴く。(句) 吾が義の神や、吾がよぶ時我に聴き給へ。

[火] 主や、願わくは爾の仁慈と慈憐は吾が生命あるの日我に伴はん。(句) 主は私の牧者なり、我万事に乏しかざらん。彼は我を茂き草場に休はす。

[水] 神や、爾の名を以て我を救ひ、爾の力を以て我を判き給へ。(句) 神や我が祈りを聴き我が口の言を聆き納れ給へ。

[木] 我が助けは天地を創りし主より来たる。

[金] 吾が神我を憐れむ者は我に先だたん。(句) 吾が神や我を諸敵より援け我を攻むる者より衛り給へ。

至聖三者修道院のズナメニイ旋律による

土 6調



主は 王 たり 彼は 威 厳を 衣 たり

(句) 主は能力を衣、またこれを帯にせり(句) 故に世界は堅固にして動ざらん(句) 主や、聖徳は爾の家に属して永遠に至らん。

日 8調



主の諸僕 夜中主の堂に立つ者や、 今主をあげめ 讃めよ

(句) 爾の手を揚げ、聖所に向かひて主を崇め讃めよ

月 4調



われ  
我よべば 主はこれを聴く。

(句) 我が義の神よ、我がよぶとき、我に聴き給え。

火 1調



主や、願わくは なんじの 仁慈と 慈憐は

いつしみ あわれみ



我が生命あるの日 我にともなわん

いのち われ

(句) 主は私の牧者なり、我万事に乏しかざらん。彼は我を茂き草場に休はす。

水 5調



かみよ 爾の名を以て我をすくい



なんじの力を以て われをさばきたまえ

(句) 神よ、我が祈りを聴き、我が口のことばをききいれ給え。

木 6調



我が助けは 天地を創りし 主より 来たる

(句) 我目を挙げて山を望む、我が助けは彼處より来たらん。

金 7調



我がかみ われを憐れむものは われに さきだたん。

(句) 我が神よ、我を諸敵よりたすけ、我を攻むる者より衛り給え。

# 祭-2

☆別冊へ

## 【パレミヤ】旧約聖書の読み

(祭日には旧約聖書が3カ所読まれる。)

司祭、睿智、

誦経、〇〇書の読み

司祭、謹みて聴くべし

誦経 本文を読み始める

### 【重連禱】

輔祭 我等皆霊を全うして曰はん、我等の思を全うして曰はん、  
輔祭 主全能者、吾が列祖の神や、爾に禱る聆き納れて憐めよ、  
輔祭 神や爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る聆き納れて憐めよ (詠) 主憐めよ (3次)  
輔祭 我が国の天皇及び国を司るものの為に主に禱らん、  
輔祭 又教会を司る我等の主教 ( ) 及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に禱る  
輔祭 又恒に記憶せらるる福たるこの聖堂の建立者、及び已に寐りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに  
葬られたる正教の者の為に禱る、  
輔祭 又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の為に禱る、  
輔祭 又此の至尊なる聖堂に者を獻り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大にして豊  
なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る、  
司祭 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何も世世に、  
(詠) 「アミン」

誦経 主よ、我等を守り、罪なくして此の晩を度らせ給へ。主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、爾  
の名は尊み歌はる、「アミン」  
主よ、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給へ。主よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓  
へ給へ。主宰よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠にて我に悟らせ給へ。聖なる者よ、爾は崇め讃め  
らる、爾の誠にて我を照らし給へ。  
主よ、爾の憐は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ。讃は爾に帰し、歌は爾に帰し、  
光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

### 【増連禱】

輔祭 我等主の前に吾が晩の禱を増し加へん、  
輔祭 神よ、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、  
輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、  
輔祭 平安の天使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、  
輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、  
輔祭 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、  
輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、  
輔祭 我等の生命の終りが「ハリストス」に適ひ、疾なく、恥なく、平安なること、及びハリス  
トスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、  
輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記  
憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委

託せん、  
司祭 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神<sup>°</sup>に獻ず、今も何時も世世に、  
司祭 衆人に平安、  
輔祭 我等の首を主に屈めん、  
司祭 願くは爾父と子と聖神の国の権柄は讚揚讚榮せられん、今も何時も世世に、

(詠) 主爾に  
(詠) 「アミン」  
(詠) 爾の神にも  
(詠) 主爾に  
(詠) 「アミン」

# 祭-3

★別冊へ

## 【リティヤのスティヒラ】

＜歌う途中で司祭、輔祭がロウソクを持って北門を出て、啓蒙所または聖堂入り口、聖堂扉外に移動する。王門は閉じたまま。司祭と共に移動してもよい。リティヤは本来聖堂外での祈りの意味で、リティヤのスティヒラは移動のための歌。＞

【リティヤ】(リティヤを行う場合は、リティヤのスティヒラを歌い前院に行う、司祭及び輔祭は香炉を持って、北門から出る。

堂役2人、各燭台1基を持って先導。王門は閉じている。)

輔祭 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し給へ、慈憐と洪恩とを以て爾の世界に臨み、正教の「ハリストティアニン」等の角を高うし、我等に爾の豊なる憐を垂れ給へ、至浄なる我等の女宰・生神女。永貞童女マリヤの禱と、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授洗イヲアン、光榮にして讚美たる聖使徒、我等の聖神父・世界の大教師・成聖者・成聖者大ワシリ、神学者グリゴリイ、金ロイオアン、我等の聖神父ミラリキヤの大主教・奇蹟者ニコライ、我等の聖神父全ロシヤの奇蹟者ペトル、アレキシイ、ヨナ、フィリップ、我等の聖神父イルクーツクの主教・奇蹟者インノケンティ、聖にして義なる神の祖父母イヲアキム及びアンナ、聖某(本堂の聖人の名を挙ぐ)及び悉くの聖人の転達に因りて、大仁慈の主や、爾に求む、我等罪人爾に禱る者に聆き納れて、我等を憐めよ、

(詠) 主憐めよ、12次 (40次)

輔祭 又我が今上皇帝の為、其権力・勝利・長寿・平安・壮健・救贖の為、及び主我が国の天皇および国を司る者の為に禱る、

(詠) 主憐めよ、12次 (30次)

輔祭 又教會を司る至聖なる會院(シノド)、我等の主教(エписコプ)某、(修道院に於て誦する時は及び我等の掌院某)及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為、凡そ憂患困難にして神の憐と佑とを要する「ハリストティアニン」の靈の為、此の聖堂と慎みて此に来る者とを覆はんが為、全世界の安和と整齊との為、神の聖なる諸教會の堅立の為、勉励と神を畏る心とを以て劬労服役する我等の諸父兄弟を助け救はんが為、参拝するを得ざる者と他出する者との為、病に臥す者を醫さんが為、已に過ぎ去りし悉くの我等の父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の安眠・寛宥・福たる記憶・諸罪の赦免の為、虜となりし者の救はれんが為、務を執る我等の兄弟、及び凡そ此の尊貴なる聖堂に務むる者と嘗て務めし者の為に禱りて曰はん、

**(詠) 主憐めよ、12次** (50次)

輔祭 又此の都邑(修道院に於ては此の聖修道院)凡の都邑と地方が、飢饉・疫病・地震・水難・火難・剣難・外攻・内乱より護られ、我が善にして人を愛する神が仁慈と哀憐とを垂れて、凡そ我等に臨む怒を遏め、其我等に逼る義なる罰より我等を救ひ、及び我等を憐むが為に禱る、

**(詠) 主憐めよ、3次**

輔祭 又主・神が我等罪なる者の禱の聲を聆き納れて、我等を憐むが為に禱る、

**(詠) 主憐めよ、3次**

司祭 (此の際司祭祈禱に挙げんと欲する所の生者死者を黙念す)、

神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給へ、主宰や、我等の罪に慈憐を垂れ、慈憐を垂れて我等を憐み給へ、蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

**(詠) アミン**

司祭 衆人に平安、

輔祭 我等の首を主に屈めん、

**(詠) 主爾に**

司祭、 高声、(衆人伏拝)

主宰大仁慈なる主イイスス・ハリストス我等の神や、至浄なる我等の女宰・生神女・永貞童女マリヤの禱と、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授イヲアン、光榮にして讚美たる聖使徒、光榮なる凱旋の聖致命者、克竹捧神なる吾が諸神父、我等の聖神父・世界の大教師・成聖者大やしり、神学者グリゴリイ、金ロイオアン、我等の聖神父ミラリキヤの大主教・奇蹟者ニコライ、我等の聖神父全ロシヤの奇蹟者ペトル、アレキシイ、ヨナ、フィリップ、我等の聖神父イルクーツクの主教・奇蹟者インノケンティ、聖にして義なる神の祖父母イヲアキム及びアンナ、聖某(本堂の聖人の名を挙ぐ)及び爾が悉くの聖人の轉達に因りて、我等の祈禱を聆き納れ、我等に罪過の赦を賜ひ、我等を爾が翼の蔭に覆ひ、諸の仇敵を我等より遠ざけ、我等の生命を平安ならしめ給へ、主や、我等と爾の世界とを憐み、并に我等の靈を救ひ給へ、爾は善にして人を愛する主なればなり

**(詠) アミン**

# 祭-4

☆別冊へ

## 【挿句のスティヒラ】

<司祭等、聖堂に戻る。挿句のスティヒラを誦する。歌ってもよい。挿句(アポステイカ)とはスティヒラのあとに句が読まれるため。平日の句は変わらないが、祭日の句は特別に選ばれている。>

【シメオンの祝文】 誦経 または 歌う

主宰よ、今爾の言に循ひて、爾の僕を釋し、安然として逝かしむ。  
蓋我が目は爾の救いを見たり、爾が萬民の前に備へし者なり、  
これ異邦人を照らす光、及び爾の民イズライリの榮なり。

## シメオンの祝文

キエフのラスペフ

adpt. Maria M.  
2004 ver.

しゅさい 主 宰 よ、 いま 爾 の ことばに 従 が いて、  
なんじ ぼく 爾 の 僕 を ゆ る し 安然 と し て ゆ か し ー ー む。  
けだし わ 蓋 我が 目 は 爾 の 救 い を 見 た り、 なんじが  
ばんみん 万 民 の 前 に そ な え し も の な り。 こ いほうじん 是 れ 異 邦 人 を 照 ら す  
ひ か り、 およ 及 び 爾 の 民 イズライリ の さかえ 榮 な り。

【聖三祝文、至聖三者祝文、天主經】

誦経 聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(3次)

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、「アミン」

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。(3次)

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、「アミン」

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 <sup>けだし</sup> 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神<sup>°</sup> に帰す、今も何時も<sup>いつ</sup> 世世に、  
(詠) 「アミン」

# 祭-5

☆別冊へ

## 【祭日のトロパリ】

<司祭、輔祭、聖堂中央のリティヤ台の回りを、炉儀しながらまわる。その間、祭日のトロパリを3回歌う>

輔祭 主に祈らん  
(詠) 主憐れめよ

司祭 主イイススハリストス我等の神、五餅に福を降して五千人を飽かしめし者や、爾親ら亦此の餅・麦・葡萄酒・油に福を降し、是を此の都邑（修逆院に於ては此の聖修道院）と爾の全世界とに満たし、及ビ之を領食する信者を聖にせよ、蓋ハリストス我等の神や、爾は萬の物に福を降し、之を聖にする主なり、我等光栄を爾と爾の無限の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に、

(詠) アミン。願くは主の名は崇め讃められ、今より世世に至らん、(3次) (まっすぐに歌う)

司祭 願くは主の降福は、其恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

早課へ

※晩課のみで終了する場合は27 ページ下の「睿智」へ

## 早 課

至高きには光栄神に帰し、地には平安降り、人には恵み臨めり。(3次)

主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げんとす。(2次)

### 【第3聖詠】

主よ、我が敵は何ぞ多き、多くの者は我を攻む、多くの者は我が霊を指して、彼は神より救を得ずと云ふ。然れども主よ、爾は我を衛る盾なり、我の榮なり、爾は我が首を挙ぐ。我が声を以て主に呼ぶに、主は其聖山より我に聴き給ふ。我臥し、寝ね、又覺む、主は我を扞ぎ衛ればなり。環りて我を攻むる萬民は、我之を懼れざらん。主よ、起きよ、吾が神よ、我を救ひ給へ、蓋爾は我が諸敵の頬を批ち、悪人の齒を折けり。救は主に依る、爾の降福は爾の民に在り。

我臥し、寝ね、又覺む、主は我を扞ぎ衛ればなり。

### 【第37聖詠】

主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する母れ、蓋爾の矢は我に刺さり、爾の手は重く我に加はる。爾の怒に依りて我が肉に傷まざる所なく、我の罪に因りて我が骨は安きを得ず、蓋我が不法は我が首に溢れ、重任の如く我を圧す、我の無智に依り我が傷腐れて且臭し。我屈まりて仆れんとし、終日憂ひて行く、蓋我が腰は熱に悩まされ、我が肉に傷まざる所なし。我力衰へて痛く憊れ、我が心の裂くるによりて號ぶ。主よ、我が悉くの願は爾の前に在り、我が歎息は爾に隠るるなし。我が心は戦ひ栗き、我が力は我より脱け、我が目の光も已に我にあるなし。我が朋と親しき者とは我が傷を見て離れ、我が親戚は遠ざかりて立つ。我が生命を覓むる者は網を設け、我を害はんと欲する者は我が淪亡のことを言ひて、毎日悪しき謀を圖む、然れども我は聾の如く聴かず、啞の如く己の口を啓かず、是に於て我は聞かなく、其口に答ふる所なき人の如くなれり、蓋主よ、我爾を恃む、主我が神よ、爾聴き給はん。我言へり、願はくは敵は我に勝たざらん、我が足の跌く時、彼等は我に向ひて誇り高ぶる。我殆ど仆れんとす、我の憂は常に我が前に在り。我は我が不法を認め、我が罪の為に甚哀む。我が敵は生きて愈強く、故なくして我を疾む者は益多し、悪を以て我の善に報ゆる者は、我が善に従ふに因りて我の敵となれり。主我が神よ、我を遣つる母れ、我に遠ざかる母れ、主我の救主よ、速に來りて我を救ひ給え。主我が神よ、我を遣つる母れ、我に遠ざかる母れ、主我の救主よ、速に來りて我を救ひ給え。

### 【第62聖詠】

神よ、爾は我の神なり、我曉より爾を尋ぬ、我が霊は渴きて爾を望み、我が身は空しくし燥ける水なき地にありて、痛く爾を慕ふ、爾の能力と爾の光栄とを見ん為なり、我が曾て爾を聖所に觀しが如し、蓋爾の愛憐は生命に愈る。我が口爾を讚美せん。是くの如く我生ける時爾を崇め讚め、爾の名に依りて我が手を挙げん。我が霊の飽かさること脂油を以てするが如く、我が口歎の聲にて爾を讚美す、榻にて爾を記憶し、夜更に爾を思ふ時に在り。蓋爾は我の扶助なり、爾が翼の蔭に於て我欣ばん、我が霊は親しく爾に付き、爾の右の手は我を扶く。彼の我が霊を害はんことを謀る者は地の深き處に降らん、彼等刃にかかりて、狐の獲物とならん。惟王は神の為に樂しまん、凡そ彼を以て誓ふ者は譽を得ん、蓋いつわりを言ふ者の口は塞がれんとす。夜更に爾を思ふ、蓋爾は我の扶助なり、爾が翼の蔭に於て我欣ばん、我が霊は親しく爾に付き、爾の右の手は我を扶く。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

ア ril l i y a、ア ril l i y a、ア ril l i y a、神よ、光栄は爾に帰す。(3次)

主憐めよ。(3次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

### 【第87聖詠】

主我が救の神よ、我晝夜爾の前に呼ぶ、願はくは我が袴は爾が顔の前に至らん、爾の耳を我が願に傾けよ、蓋我が霊は苦難に飽き、我が生命は地獄に近づけり。我は墓に入る者と等しくなり、力なき人の如くなれり、死人の中に投げられて、猶殺されて柩に臥し、爾に復記憶せられず、爾の手より絶たれし者の如し。爾我を深き坎に、闇冥に、淵に置けり。爾の憤は重く我に加はり、爾の波を傾けて我を撃てり。爾我が識る所の者を我より遠ざけ、我を彼等の惡むべき者となせり、我閉されて出づるを得ず。我が目は愁苦に因りて痛く疲れたり、主よ、我終日爾を呼び、手を伸べて爾に向へり。爾豈に死せし者に奇跡を施さんや、死せし者豈に起ちて爾を讚揚せんや、爾の憐は墓の中に、爾の眞は腐敗の地に豈に伝へられんや、爾の奇跡は闇冥に、爾の義は遺忘の地に豈に識られんや。主よ、我爾に呼ぶ、我の袴は晨に爾の前に在り。主よ、爾は何為れぞ我が霊を棄て、爾の顔を我に隠し給ふ。我少きより禍に遭ひ、幾ど消え亡せんとし、爾の恐嚇を受けて我が



疲は極れり。爾の憤は我を度り、爾の恐嚇は我を碎けり、毎日水の如くに我を環り、齋しく集まりて我を圍む。爾は我が友と親しき者とを我より遠ざけたり、我が識る所の者は見えず。

主我が救の神よ、我晝夜爾の前に呼ぶ、願はくは我が禱は爾が顔の前に至らん、爾の耳を我が願に傾けよ。

【第 12 聖詠】

我が霊よ、主を讃め揚げよ、我が中心よ、其聖なる名を讃め揚げよ。我が霊よ、主を讃め揚げよ、彼が悉くの恩を忘るる母れ。彼は爾が諸の不法を赦し、爾が諸の疾を療す、爾の生命を墓より救ひ、憐と恵みとを爾に冠らせ、幸福を爾の望に飽かしむ、爾が若復さること驚の如し。主は凡そ迫害せらるる者の為に義と審判とを行ふ。彼は己の途をモイセイに示し、己の作為をイズライリの諸子に示せり。主は宏慈にして矜恤、寛忍にして鴻恩なり、怒りて終あり、憤を永く抱かず。我が不法に因りて我等に行はず、我が罪に因りて我等に報いず、蓋天の地より高きが如く、斯く主を畏るる者に於ける其憐は大なり、東の西より遠きが如く、斯く主は我が不法を我等より遠ざけたり、父の其子を憐むが如く、斯く主は彼を畏るる者を憐む。蓋彼は我が何より造られしを知り、我等の塵なるを記念す。人の日は草の如く、其栄ゆること田の華の如し。風之を過ぐれば無に帰し、其有りし處も亦之を識らず。唯主の憐は彼を畏るる者に世より世に至り、彼の義は其約を守り、其誠を懐ひて、之を行ふ子孫孫に及ばん。主は其宝座を天に建て、其国は萬物を統べ治む。主の諸の天使、能力を具へ、其声に遵ひて其言を行ふ者よ、主を讃め揚げよ。主の悉くの軍、其旨を行ふ役者よ、主を讃め揚げよ。凡そ主の悉くの造工よ、其一切治むる處に於て主を讃め揚げよ。我が霊よ、主を讃め揚げよ。

其一切治むる處に於て、我が霊よ、主を讃め揚げよ。

【第 142 聖詠】

主よ、我が禱を聆き、爾の眞實に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給へ。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が霊を逐ひ、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が霊は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想ひ、凡そ爾の行ひしことを考へ、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向ひ、我が霊は渴ける地の如く爾を慕ふ。主よ、速に我に聴き給へ、我が霊は衰へたり、爾の顔を我に隠す母れ、然ずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給へ、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給へ、我が霊を爾に挙げればなり。主よ、我を我が敵より救ひ給へ、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行ふを教え給へ、爾は我の神なればなり、願はくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給へ、爾の義に依りて我が霊を苦難より引き出し給へ、爾の憐を以て我が敵を滅し、凡そ我が霊を攻むる者を夷げ給へ、我は爾の僕なればなり。

主よ、爾の義に依りて我に聴き給へ、爾の僕と訟を為す母れ。

主よ、爾の義に依りて我に聴き給へ、爾の僕と訟を為す母れ。

願はくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光荣は爾に帰す。(3次)

【大聯禱】

輔祭 我等安和にして主に禱らん、 (詠) 主 憐めよ  
輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に禱らん、  
輔祭 全世界の安和神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に禱らん  
輔祭 此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とを以て此に来る者の為に主に禱らん、  
輔祭 教会を司る我等の主教(某)、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に禱らん、  
輔祭 我が国の天皇及び国を司る者の為に主に禱らん、  
輔祭 此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に禱らん、  
輔祭 氣候順和、五穀豊饒、天下泰平の為に主に禱らん、  
輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び彼等の救いの為に主に禱らん、  
輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが為に主に禱らん、  
輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、  
輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光荣の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主 爾に  
司祭 (高声) 蓋凡そ光荣尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」

<カフィズマ、セダレン省略>

# 祭-6

☆別冊へ

## 【主は神なり と 祭日のトロパリ】

<主は神なりをトロパリの調で歌い、続いて祭日のトロパリを歌う。>

大祭日の場合はポリエレイが行われる。中小の祭日の場合はポリエレイなし。

主の名をほめあげよ主のよほくやほめあげよ

ア リルイヤーア リルイヤーア リルイヤー

イエルサリムにましますの主はシオンにあがめほめらる

ア リルイヤーア リルイヤーア リルイヤー

主をととみほめよ アリルイヤーア リルイヤー

かれは仁慈にしてそのあわれみは世世にあれば

なりアリルイヤー 天のかみをととみほめよ

アリルイヤーア リルイヤーそのあわれみは世

世にあれば なりアリルイヤー

# 祭-7

☆別冊へ

## 【讃歌】

< 炉儀が終わるまで繰り返す。3回とは限らない。 >

### 【小連禱】

- 輔祭 我等安和にして主に禱らん、 (詠) 主 憐れめよ  
輔祭 上より降る安和と我等が<sup>たましい</sup>霊の救いの為に主に禱らん、 (詠) 主 憐れめよ  
輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・<sup>しょうしんじょ</sup>生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に<sup>ことごと</sup>悉くの我等の<sup>いのち</sup>生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主 爾に  
司祭 (高声) 蓋父と子と聖神の名は讃揚せられ、爾の国は讃揚せらる、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」

### 【アンティフォン】 4調 (祭日は歌う)

我が <sup>おさな</sup>幼きと-き-より 多くの欲は 我を 攻む  
救世主や なんじ み-ず から 我を守り防ぎて 救いた まえ  
シオンを、にくむ ものや、 主よりはじを受けよ

くさの火に焼かるるがごとくなんじもつくされん  
 光えいはちちと子と聖神に帰す  
 いまも-いつも世世にアミン  
 およそ-のたましいは聖神にて生かされ  
 きよきを以ていよいよのぼり聖三者の一体にて  
 奥密に照らさる

# 祭-8

☆別冊へ

## 【ポロキメン】から福音経の読み

<まっすぐ歌うあるいは唱えても可>

### 【福音の読み】

主に祷らん、

#### 主、憐れめよ

(高声) 蓋我が神や、爾は聖にして聖なる者の中に居る、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

「アミン」

#### 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(2回半)

(句) 神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ、我等に聖福音経を聴くを賜うを主・神に祷らん、

#### 主憐めよ、3次

睿智肅みて立て、聖福音経を聴くべし、衆人に平安、

## 爾の神にも、

(某) 伝の聖福音經の読み、

## 主や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

謹みて聴くべし、

(司祭復活の福音經を誦す)

## 主や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

### 【第 50 聖詠】

神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法を抹し給へ。屢我を我が不法より洗ひ、我を我が罪より清め給へ、蓋我は我が不法を知る、我の罪は常に我が前に在り。我は爾獨爾に罪を犯し、惡の目の前に行へり、爾は爾の審斷に義にして、爾の裁判に公なり。視よ、我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に眞實のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。「イソップ」を以て我に沃げ、然せば我潔くならん、我を滌へ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かせ給へ、然せば爾に折られし骨は悦ばん。爾の顔を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給へ。神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を我の衷に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我より取り上ぐる事母れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給へ。我不法の者に爾の道を教へん、不虔の者は爾に歸らんとす。神よ、我が救の神よ、我を血より救ひ給へ、然せば我が舌は爾の義を讚め揚げん。主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げん、蓋爾は祭を欲せず、欲せば我之を獻らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なる心は、神よ、爾輕んじ給はず。主よ、爾の恵に因りて恩をシオンに垂れ、イエルサリムの城垣を建て給え、其時に爾義の祭、獻物と燔祭とを喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠へんとす。

# 祭-9

☆別冊へ

### 【福音後のスティヒラ】

<祭日によって異なるので要注意。祈祷書の指示に従う>

輔祭 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し給へ、慈憐と洪恩とを以て爾の世界に臨み、正教の「ハリストティアニン」等の角を高うし、我等に爾の豊なる憐を垂れ給へ、至浄なる我等の女宰・生神女。永貞童女マリアの祈りと、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授洗イオアン、光榮にして讚美たる聖使徒、我等の聖神父・世界の大教師・成聖者・大ワシリイ、神学者グリゴリイ、金ロイオアン、我等の聖神父ミラリキヤの大主教・奇蹟者ニコライ、我等の聖神父全ロシアの奇蹟者ペトル、アレキシイ、イオナ、フィリップ、我等の聖神父イルクーツクの主教・奇蹟者インノケンティ、光榮なる凱旋の聖致命者、克肖捧神なる我が諸神父、聖にして義なる神の祖父母イオアキムびアンナ、聖某(本堂の聖人)及び悉くの聖人の轉達に因りて、大仁慈の主や、爾に求む、我等罪人爾に禱る者に聆き納れて、我等を憐めよ、

### (詠) 主憐めよ、12次

(高声) 爾が独生子の仁慈と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讚揚せらる、今も何時も世世に、

### (詠) 「アミン」

# 祭-10

☆別冊へ

## 【規程カノン】

＜第3歌頌のあと小連禱（セダレンまたはコンダク省略）、第6歌頌のあと小連禱とコンダク（イコス省略）、第9歌頌のあと小連禱。

「ヘルビムより尊く」は12大祭は歌わないが、中小の祭日は歌う。＞

### 【小連禱】

輔祭 我等安和にして主に禱らん、

（詠）主 憐れめよ

輔祭 上より降る安和と我等が<sup>たましい</sup>霊の救いの為に主に禱らん、

（詠）主 憐れめよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・<sup>しょうしんじょ</sup>生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に<sup>ことごと</sup>悉くの我等の<sup>いのち</sup>生命を以て、ハリストス神に委託せん、

（詠）主 爾に

司祭 （高声）蓋天の衆軍爾を讚揚す、我等も光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

（詠）「アミン」

※主日の場合は「主我等の神は聖なり」を歌う。

（句）主はシオンにおいて大いなり。

（句）主は高く衆民の上にある。

### 【差遣詞（エクサポスティラリ）】 <省略>

# 祭-11

☆別冊へ

## 【凡そ呼吸ある者とスティヒラ】（讚揚歌、高揚歌）

＜大祭では「凡そ呼吸ある者」を歌って、148, 149, 150 聖詠を唱え、末尾にスティヒラを挿入するが、日本では省略されて、最後の生神女讚詞のみを歌っている。中小の祭日には「天より主を讚め揚げよ」から誦読し、スティヒラ＞

【大詠頌】（大祭は歌う。中小祭は誦読。祭日経の指示に従う。）

## 選択 1 大頌栄

司祭 光栄は爾我等に光を顕せる主に帰す

至イと高ツカきには光栄神カミに帰し 地には平安くだり

人に恵メみはのぞめり 主天の王 神父カミ全能者ゼンノウや

主シュ独生ドクセイの子 イスススストス およびせい神シンや 汝の大いなる

光栄によって われら汝をあがめ 汝をほめ あげ"なんじを

伏フし拝オガみ 汝を尊トウとみ 歌い なんじに感謝す 主かみや

神コの小羊父ロビツジの子 世の罪をにないしものや我等をあわ

れみたまえ世のもろもろの罪を荷カいしものやわれらの

祈りをいれたまえ父の右に坐カするものやわれらを

あわれみたまえ汝は独ヒトりせいなり汝は独ヒトり主

イスストス神父カミの光栄をあらわすものなればなり

アミンわれ日ヒ日に汝をほめあげ汝の名を世世に

あがめうたわん主やわれをまもり罪なくしてこの日を

わたらせたまえ主わが先祖センソのかみや汝はあがめ

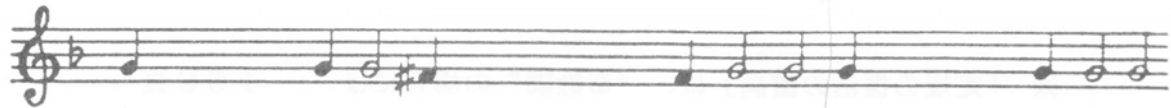
ほめられ汝の名は世々にとうとみ歌ウタわるアミン主や汝

をたのむによって汝のあわれみを我等ワレラにたれたまえ

主や汝はあがめほめらる汝の戒イマシめをわれに教えたまえ

三度





主や汝は世々 われらのかくれがたり われかつていえり



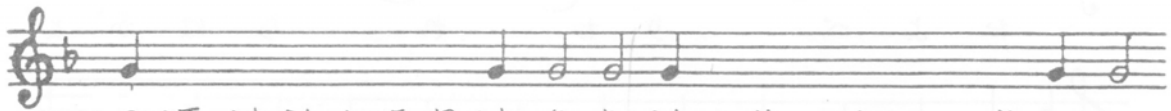
主やわれをあわれみわがたましいを医イやしたまえわれ



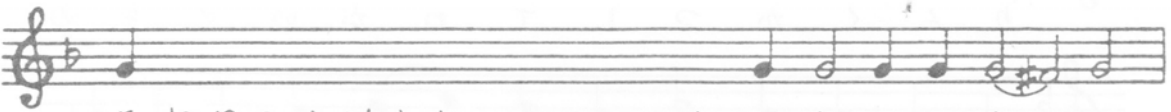
罪を汝に得ウればなり主や汝に走ハシりつく 汝の旨ムネを行ユク



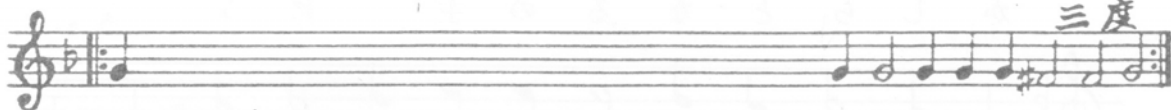
なうをわれに教オシえたまえ 汝はわれのかみいのち



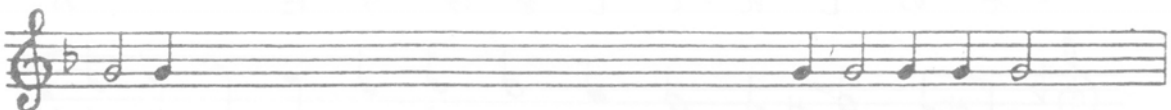
の源ミナトは汝にあればなり 汝の光ヒカリにおいて光ヒカリをみん



あわれみを汝を知るものにつねにたれたま え



聖なる神 聖なる勇氣 聖なる常生のものや我等をあわれめよ 三度



光榮は父と子と聖神に帰す今もいつも世世にアミン



聖なる常生のものやわれらをあわれめよ ながく



みせいなる勇氣せいなる常生のものやわれらをあわれめよ

## 選択2 大頌栄

【大詠頌】司祭 光栄は爾我等に光を顕せる主に帰す、

♪ 至高きには光栄神に帰し、地には平安降り、人には恵み臨めり。

至とたかきに 光栄か 神に 帰し、  
地には 平安く だり 人には 恵みの 臨ぞ めり

1. 主 天の王、神・父 全能者よ、主 <sup>どくせい</sup>独生の子イイスス・ハリストス、及び <sup>せいしん</sup>聖神よ、

主 天の王、神・父 全能者よ 主独生の子イイスス・ハリストス、及び 聖神よ、

<以下同様に A B 繰り返して歌う>

2. 爾の大なる光栄に よ りて、我等 爾を崇め、爾を ほめ あげ、  
爾を伏し拜み、爾を尊み うたひ、爾に 感謝す。
3. 主 神よ、神の あ、父の子、世の罪を任ひし 者よ、我等を 憐み 給へ、  
世の もろもろ の罪を任ひし 者よ、我等の いのち を い れ 給へ。
4. 父の右に坐する 者よ、我等を 憐み 給へ。
5. 爾は独り 聖なり、爾は独り主イイスス・ハリストス、神・父の光栄を 顕す者なれば  
なり、「アミン」
6. 我 日々に 爾を ほめ あげ、爾の名を 世々に 崇め歌はん。
7. 主よ、我を 守り、罪なくして この日を わた らせ 給へ。
8. 主 吾が先祖の 神よ、爾は 崇め讃められ 爾の名は 世々に 尊み歌わる「アミン」。
9. 主よ、爾を侍むに 因つて、爾の 憐み を 我等に 垂 れ 給へ。
10. 主よ、爾は 崇め ほめ らる、爾の いまし め を 我に おし へ 給へ。(3次)
11. 主よ、爾は 世世、我等の 避 所 た り。
12. 我曾て 言 へ り、主よ、我を 憐 み、  
我が たましい い や を 醫 し 給 へ、我 罪を 爾に 得 た れ ば な り。

13. 主よ、爾に<sup>はしつゝ</sup>趨り附く、爾の旨を行ふを 我に教へ給へ、

14. 爾は我の<sup>かみ</sup>神、生命の源は 爾に在ればなり、

我等 爾の光に<sup>あかり</sup>於いて 光を觀ん。

15. 憐みを 爾を知る<sup>もの</sup>者に 恒に 垂れ給へ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(3次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」。

聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

(Святой Боже, Святой Крепкий, Святой Бесмертный, помилуй нас.)

【聖なる神】

聖なる神、 聖なる勇毅 聖なる常生 のものよ、

我 等を <sup>あわ</sup> 憐 れ め よ、 (3回繰り返す)

光 栄 は 父 と 子 と 聖 神 に 帰 す 今 も 何 時 も 世 世 に ア ミ ン

聖 なる 常 生 の も の よ、 我 等 を <sup>あわ</sup> 憐 れ め よ、

聖なる神、 聖なる勇毅 聖なる常生 のものよ、

我 等 を <sup>あわ</sup> 憐 れ め よ、

(スラブ語)

スヴィヤティイ ボジエ スヴィヤティイ クレプ キー スヴィヤティイ ベス メールトゥヌイ ポ ミ ル イ ナース

# 祭-12

☆別冊へ

## 【祭日のトロパリ】

### 【重聯禱】

輔祭 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ。爾に禱る、聆き納れて憐めよ、  
(詠) 主憐めよ、(3次)

輔祭 又我が国の天皇及び国を司る者の為に禱る、  
輔祭 又教会を司る我等の主教(某)、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に禱る、  
輔祭 又ハリストスを愛する悉くの皇軍の為に禱る、  
輔祭 又恒に記憶せらる福たる此の聖堂の建立者、及び已に寝りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に禱る、  
輔祭 又神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐・生命・平安・壮健・救贖・眷顧・寛宥及び諸罪の赦を賜はんが為に禱る、  
輔祭 又此の至尊なる聖堂に物を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る、  
司祭 (高声) 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、  
(詠) 「アミン」

### 【増聯禱】

輔祭 我等主の前に吾が朝の禱を増し加へん、 (詠) 主憐めよ  
輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ  
輔祭 此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ  
輔祭 平安の神使正しき教導師、吾が靈体の守護者を賜はんことを主に求む  
輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、  
輔祭 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む  
輔祭 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む  
輔祭 我等の生命の終が「ハリストティアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき対をなすを賜はんことを求む  
輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、  
(詠) 主爾に  
司祭 (高声) 蓋爾は仁慈と慈憐と仁愛との神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、  
(詠) 「アミン」  
司祭 衆人に平安、 (詠) 爾の神にも  
輔祭 我等の首を主に屈めん、 (詠) 主爾に  
司祭 (祝文を黙誦)、聖なる主、高きに居り卑きを臨み、爾が見ざる所なき目にて萬物を鑑る者や、我等心と体との項(くび)を爾の前に屈めて爾に禱る、爾が見えざる手を爾が聖なる住所より伸べて、我等衆人に福を降し給へ、我等に自由或は自由ならずして犯し罪あらば、爾善にして人を愛する神なるに依りて之を赦して、我等に今世来世の諸善を與へ給へ、  
(高声) 蓋我が神や、我等を憐みて救ふこと爾に歸す、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、  
(詠) 「アミン」  
輔祭 睿智 (詠) 福を降せ  
司祭 永在の主ハリストス我等の神は恒に崇め讚めらる、今も何時も世世に

(詠) 「アミン」

神や、我が国の天皇と、正教会の教と、正教のすべてのハリストティアニン等を永く  
守り給へ、

司祭 至聖なる生神女や、我等を救ひ給へ、

(詠) ヘルビムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操をやぶらずして神ことばを産み  
し実の生神女たる爾を崇め讃む、

司祭 ハリストス神我等の恃や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、

(詠) 光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に「アミン」、主憐めよ (3次) 福を降  
せ、

司祭 (発放詞) \_\_\_\_\_ハリストス我等の真の神は、其至浄なる母、光荣にして讃美たる聖使  
徒聖某 (本日聖人の名を挙ぐ) 及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人  
を愛する主なればなり、

(詠) 「アミン」

【萬壽詞】

神よ、我が国の天皇を、及び国を司る者、我等の(府)主教 \_\_\_\_\_  
及び悉くの正教のハリストティアニン等を 幾とせにも護り給え。

## 一時課

来れ、我等の王・神に叩拝せん。

来れ、ハリストス我等の王・神に叩拝俯伏せん。

来れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

### 第5聖詠

主よ、我が言を聴き、我が思を悟れ。吾が王吾が神よ、吾が呼ぶ声を聴き納れ給へ、我爾に祈ればなり。  
主よ、晨に吾が声を聴き給へ、我晨に爾の前に立ちて待たん。蓋爾は不法を喜ばざる神なり、悪人は爾  
に居るを得ず、不虔の者は判事が目の前に止まらざらん、爾は凡そ不法を行ふ者を憎む、爾はいつわり  
を言ふ者を滅ぼさん、残忍詭けつものは主之を憎む。惟我爾が憐の多きに倚りて爾の家に入り、爾を  
畏れて爾が聖殿に伏拝せん。主よ、我が敵の為に我を爾の義に導き、我が前に爾の道を平にせよ。蓋彼  
等の口には眞實なく、彼等の心は悪逆、彼等の喉は開けたる枢、其舌にて媚び諂ふ。神よ、彼等の罪を  
定め、彼等をして其謀を以て自ら敗れしめ、彼等が不虔の甚しきに依りて之を逐ひ給へ、彼等爾に逆ら  
へばなり。凡そ爾を頼む者は喜びて永く楽み、爾は彼等を庇ひ護らん、爾の名を愛する者は爾を以て自  
らほこらんとす。蓋主よ、爾は義人に福を降し、恵みを以て楯の如く彼を環らし衛ればなり。

### 第89聖詠

主よ、爾は世世に我等の避所たり。山未だ生ぜず、爾未だ地と全世界とを造らざる先、且世より世まで  
も爾は神なり。爾人を塵に帰らしめて曰ふ、人の子よ、帰れと。蓋爾が目の前には、千年は過ぎし昨日  
の如く、夜間の更の如し。爾は大水の如く彼等を流す、彼等は夢の如く、朝に生ふる草の如し、朝には  
花さきて且青し、暮には刈られて稿る。蓋我等は爾の怒に因りて消え、爾の憤に因りて惶れ惑ふ。爾は  
我等の不法を爾の前に置き、我等の隠れたる事を爾が顔の光の前に置けり。我等が悉くの日は爾が怒の  
中に過ぎ、我等は我が年を失ふこと音の如し。我が年の数は七十年、或は健なれば八十年なり、其間の  
壯なる時も劬勞と疾病あり、蓋其過ぐることを速にして、我等飛び去る。誰か爾が怒の力を知り、又爾を  
畏るる度に依りて爾の憤りを識らん。願はくは我等に我が日を算ふることを教へて、智慧の心を獲しめ  
給へ。主よ、面を回せ、何の時に至るか、爾の僕を憐み給へ。夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然  
せば我等生涯歎び楽まん。爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を楽ましめ給へ。願  
はくは爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光荣は其諸子に著れん、願はくは主我が神の恵みは我等に在ら  
ん、願はくは我が手の工作进行を我等に助け給へ、我が手の工作进行を助け給へ。

#### 第 100 聖詠

我憐と審判とを歌はん、主よ爾に歌を奉らん。我きずなき道を思はん、爾何の時我に至るか、我きずなき心を以て我が家の中を行かん。我が目の前には邪なる物を置かざらん、法に背く行は我之を疾む、其れ必我に附かざらん。壊れし心は我に遠ざかり、悪しき者は我之を識らざらん。隱に己の隣を誇る者は我之を逐ひ、目驕り、心高ぶる者は我之を容れざらん。我が目は斯の地の忠信なる者を顧みて、彼等を我が傍に居らしめん。きずなき道を行く者は我に事へん。貳心行ふ者は我が家に居るを得ず、いつわりを言ふ者は我が目の前に止らざらん。晨に我此の地の悉くの不虔者を滅して、凡そ不法を行ふ者を主の城邑より絶たれしめん。

光栄は父と子と聖神<sup>o</sup>に帰す、今も何時も世世に、「アミン」  
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光栄は爾に帰す。(3次)  
主憐めよ。(3次)

光栄は父と子と聖神<sup>o</sup>に帰す。

#### トロパリ (祭日経などからその日のトロパリ)

今も何時も世世に、「アミン」  
嗚呼恩寵に満たさるる者よ、我等何を以て爾を稱せんか、天とせん、爾義の日を照したればなり、樂園とせん、爾枯れざる花を開きたればなり、童貞女とせん、爾貞操を壞らざればなり、浄き母とせん、爾聖なる懐に萬物の神たる子を抱きたればなり、彼に我等の靈の救はれんことを祈り給へ。  
我が足を爾の言に固め給へ、諸の不法の我を制すを許す母れ。  
我を人の迫害より救ひ給へ、然せば我爾の命を守らん。  
爾が顔の光にて爾の僕を照し、爾の律を我に誨へ給へ。  
主よ、願くは我が口は讚美に満てられて、我爾の光栄を歌ひ、日々に爾の威嚴を歌はん。

#### [聖三祝文][至聖三者][天主經]

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(3次)  
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」  
至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。  
主憐めよ。(3次)  
光栄は父と子と聖神<sup>o</sup>に帰す、今も何時も世世に、「アミン」  
天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

#### コンダク (祭日経などからその日のコンダク)

主憐めよ(40次)  
何の日、何の時にも、天にも地にも叩拝讚榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、来世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誠に向かはしめ給へ、我等の靈を聖にし、体を潔くし、慮を直くし、思を浄くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると、爾の近づき難き光栄を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、「アミン」  
主憐めよ。(3次)  
光栄は父と子と聖神<sup>o</sup>に帰す、今も何時も世世に、「アミン」  
ヘルウィムより尊く、セラフィムに並なく栄え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讚む。  
神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 神よ、我等に恩を被らせ、我等に福を降し、爾の顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給へ。  
誦經「アミン」

【生神女のコンダク】



生神女やわれらなんじのぼくひはわざわい  
よりたすけられしをもってなんじよくかつの  
将シヨウすいに勝ち歌と感謝をたてまつる勝たれぬ  
ちからをたもつによつてわれらをもろもろの  
苦難クナンよりすくいなんじをうとつてよめならぬ  
よめやよろこべよと呼ばしめたまえ

司祭 ハリストス神我等の恃よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。  
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、「アミン」主憐めよ（3次）、福を降せ。

司祭【發放詞】ハリストス我等の眞の神は、其至浄なる母の祈祷と、無形なる尊き天軍、光栄にして讚美たる聖使徒、聖（某）本堂及び本日の聖人、聖にして義なる神の祖父ヨアキム及びアンナ、及び所聖人の轉達に因りて、我等を憐れみ救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり、  
「アミン」

祭-12

☆別冊へ

【祭日のトロパリ】

